

校長室より

二松学舎大学附属高等学校
校長 鶴飼敦之

「二松から飛翔へ」～ 一期一会 ～

夏合宿レポート ～サッカー部 茨城県鹿嶋市～

お盆も過ぎ、夏休みも残り10日余りとなりました。生徒の皆さんは、それぞれに有意義な時間を過ごしていると思います。私は8月17日(日)から2泊3日で実施されているサッカー部の合宿を訪ね、頑張る部員たちを応援してきました。

今年の合宿地は茨城県鹿嶋市。北浦と太平洋に挟まれた自然豊かな土地であり、Jリーグ・鹿島アントラーズの本拠地で「サッカーの街」としても知られています。練習会場となった「鹿島ハイツ」は、サッカーグラウンドが5面などを備えた総合スポーツ施設で、運動後には温泉で汗を流すこともできます。恵まれた環境の中で、日頃の練習の成果を存分に試す合宿となりました。

今回は、西條先生の大学時代のつながりを通じて集まった関東近県13チームとの合同でゲーム形式で行われました。対戦相手はどれも実力校ばかりで、8月末に控える全国高校サッカー選手権大会予選に向け、実践力を磨く絶好の機会となりました。

訪問したのは合宿2日目。天気予報でも「危険な暑さ」と報じられるほどの猛暑で、人工芝のピッチは太陽の照り返しで一段と熱を帯び、選手たちにとっては過酷なコンディションでした。その中でも午前中は埼玉県の高豪・岩槻高校と対戦。残念ながら失点が重なり、課題を突きつけられる結果となったようです(終了後に現地に到着)。午後は神奈川県文武両道の伝統校・川和高校との一戦。相手はスキの少ない組織力と高い技術を兼ね備え、常に選手同士で声を掛け合い、互いを鼓舞しながらプレーする姿が印象的でした。二松のベンチからも「早い!」「うまい!」と驚きの声も聞かれました。相手のコーナーキックからのセットプレーやポジショニングなど、多くの学びを得られたことと思います。

宿舎では1年生14名、2年生15名、3年生5名と、学年ごとに大部屋で寝泊まりをしていました。練習後は、冷房の効いた部屋で束の間の休息をとりながらも、食事や練習準備に協力し合う姿が見られました。マネージャーの2・3年生2名も、テーピングや水分補給のサポートをこなし、まさにチームを陰で支える頼もしい存在でした。

合宿は技術の向上だけでなく、生活を共にする中で仲間との絆を深め、上下の学年が互いに刺激を与え合う大切な機会です。猛暑の中で一人ひとりが体力の限界に挑みながらも、声を掛け合い、支え合う姿にチームの成長を感じました。選手権予選に向け、この経験が必ずや力となることでしょう。夏の終わりに、サッカー部が一丸となって成果を残してくれることを大いに期待しています。

